

学校の1日

挨拶・出勤・校庭で遊ぶ・給食指導

そうじ・帰りの会・校務分掌・事務・学舎

ムラカミ ハナキ

教育原論リアクション (第10回、2019年6月21日) 教師について

番号 19600 氏名

1 前々回 (6月7日)・前回 (14日) リアクションを読んだ感想

教員になるために、子どもの発達段階を理解することはとても大事なことがわかった。
そして、村瀬先生の話を聞いて、教員になるために必要なことと、教員になるために「今」必要なことがよく理解できたので良かった。

2 日本の「学校の日」(東京都教育庁) から教師の仕事を考えよう (教師の仕事内容、なぜ教師は多忙なのか、等)

大元は「授業」だ。しかし、授業が全てではない。児童とともに過ごす休み時間や給食の時間、生徒指導等をしていなければならない。また、授業の準備や行事が近づくと行事準備、登下校指導など、児童の前に立っていかなくても、教員として仕事をこなさなければならなかったため、教員は多忙だと言える。また、教員になってからでもより成長するために、実習や研修に参加しなければならないため。

(A)

3 新聞記事「教員 進まぬ改革」(朝日新聞 6月20日) から、日本の教師の仕事の特質を考えよう (何に費やす時間が多く、何に費やす時間が少ないか)

日本の小中学校の教員は他の先進国と比べ、学ぶための時間が少なくて、

労働時間が「多い」。資料を見てわかるのは、日本は部活動指導、事務業務が労働時間に多く含まれていた。右の資料(表)にもある通り、職能開発=知識や専門性を高めるための時間が、週間0.6時間と、アメリカは「少ない」と見た。このように、教育現場から出てくる問題を解決していきながら動きがあるのは確かだが、これには対応できず、ゆるやかに業務を減らしていく形になるだろう。

	日本	米	中	外国
授業			18	< 20
課外活動			(7.5)	> 2
事務	5.2		(5.6)	> 3
授業準備	8.6		8.5	7
職能開発			0.6	< (3)

4 恒吉 藤子「人間形成の日米比較」から、日本の学校・指導の特質をあげなさい (C)

日本	アメリカ
日直 ←	教師の指示
いろいろは活動に教育的意味 ←	授業中心
集団行動 ←	個別指導 (or)
内在型 (内面的感情動機) ←	外在型 (教師の直接指示)

・アメリカから見た日本の教育は、「個性が如、厳しい統制、丸暗記」だというイメージは、実際に私も抱いていた。
・専門的な部分は、専門の人に任せるといった意見があるようだが、教育面で見ると、多少は日本の教育・指導の特質を活かす必要と、人としての成長が子ども達に見られなくならないと思う。

5 教師の忙しさは、「経済合理性」「集団圧力系ワークホーリック」「自己実現系ワークホーリック」のどれで、説明できるか (D)

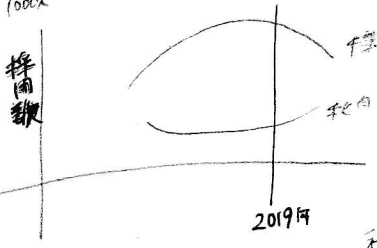
働き過ぎる問題について

- 1 「経済合理性」 → 働けばお金がもらえる
 - 2 「集団圧力系ワークホーリック」 → 上司や同僚が残業をしているから私も残業をする。
 - 3 「自己実現系ワークホーリック」 → 自分が好きでいることをして相手にも喜んでもらえる。
- 教師の忙しさは3つのどれでも説明できると思う。他の仕事と比べると、1、2が多いと思うが、教師は1よりも3が多い人だと大半だと思うので、3も十分に含まれると思う。

8 他の方のコメントをもらう

() → 先生のハナキの内容も自分のイケンもよくまとめられているとおもう。





小学校 140 単位
 小+ (中高) 英 140 = 180 単位
 小+ 社 140 = 180
 小+ 英社 180 = 220

(A) 学校の1日
 梅園 → 出欠 → 校庭で遊ぶ
 → 給食指導 → とうじ → 朝の会
 → 校務指導 → 事務 → 学年会

社会 10倍 英語 5倍

教育原論リアクション (第10回、2019年6月21日) 教師について

番号 1960 氏名

1 前々回 (6月7日)・前回 (14日) リアクションを讀んでの感想

みんなたくさん書いてあり、とても参考になった。先生の語っていたこと以外に、自分の意見も、かきと述べていて、私も見習おうと思った。前回のリアクションには、おんなから経験をたくさんしたいと書いてあり、私も同じ感想だったので共感した。教員になるために、今からできることもたくさんあるのだから、していきたいと感じた。

2 日本の「学校の一日」(東京都教育庁) から教師の仕事を考えよう (教師の

仕事内容、なぜ教師は多忙なのか、等)

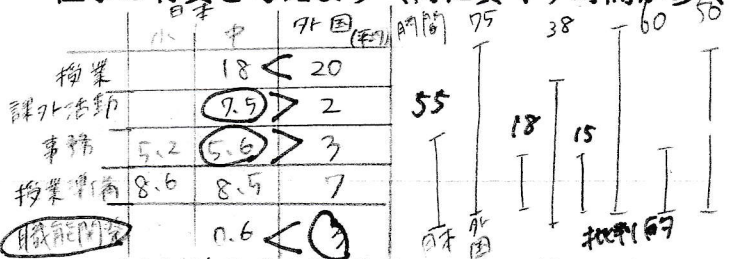
(A)

- 「登校指導」→ 児童に笑顔で挨拶がある。子供たちの反応から、その日の体調や気分を見る。
- 「朝の会」→ 一人一人の顔を見ながら、名前を呼んで出席を確認する。登校していない児童が「何らかの」保護者に連絡する。
- 「授業」→ 学びや作りを作る。友人関係も把握しておく。
- 「中休み」→ 児童と遊ぶ。
- 「給食」→ 生活リズムを回して児童と一緒に居る。その会話の中から77%の情報を作ることが出来る。
- 「清掃指導」→ 児童と一緒に清掃する。破損箇所は、何らかの理由で「修理」出来る。
- 「下校の会」→ 下校の際をいかに言う。「放課後」→ 校務

このように(日)児童とつとめ、児童の生活から校務を「保つて」はならない

3 新聞記事「教員 進めぬ改革」(朝日新聞 6月20日) から、日本の教師の

仕事の特徴を考えよう (何に費やす時間が多く、何に費やす時間が少ないか) (B)



- 授業時間が外国より少ない。
- 部活などの課外活動の時間が外国より多い。
- 事務の時間が外国よりも日本の方が長い。
- 職業別研究の時間が外国より短い。

4 恒吉 僚子「人間形成の日米比較」から、日本の学校・指導の特徴をあげなさい (C)

日本	アメリカ
日直関係	教師の指示
いろいろな理由から	梅園中心
教育的意味	個別指導化
集団行動	存在感
内在型	(教師の直接指示)
自覚性	

5 教師の忙しさは、「経済合理性」「集団圧力系ワークホーリック」「自己実現 (D)

系ワークホーリック」のどれで、説明できるか (本田由紀『軋む社会』参照)
 「集団圧力系ワークホーリック」で説明できると思う。自分の好きなこと=趣味を仕事に
 持ちこんでいるのが、教師だから「自己実現系ワークホーリック」だと言うこともできると思うが、
 上司とのつきあいや、校務などの仕事も考えるとやはり「集団圧力系ワークホーリック」
 だと思ふ。

8 他人のコメントをもらう

() → 教師の役割。とすべく77%でゼッティリし。